

## 今月のコンテンツ

- 第57回日本医療・病院管理学会学術総会からのご報告
- 第78回日本公衆衛生学会総会（高知）からのご報告
- 今月のお知らせ
- （広報担当）晩秋の情景

### 構成学会の総会からのご報告

#### 第57回日本医療・病院管理学会学術総会報告

第57回日本医療・病院管理学会学術総会 学術総会長  
 独立行政法人 労働者健康安全機構 本部研究ディレクター

いとう ひると  
 伊藤 弘人



第57回日本医療・病院管理学会学術総会が、令和元年11月2日から3日間にわたり、朱鷺メッセ（新潟市）で開催された。特別企画の内容を中心に概要を報告する。

総合テーマは「持続可能な地域医療を支える医療・病院管理学」であった。我が国では少子高齢化の進展により医療ニーズが高まる一方、確実な人口減少と災害リスクの高まりに直面している。第57回総会では、医療・病院組織が蓄積してきた人材・設備・医療技術等を



メインホールでのシンポジウム  
 （テーマ：高齢社会とこれからの医療における質の評価）

さらに発展・活用していくためのあらゆる方策の共有・議論を行った。厚生労働省のみならず、内閣府、文部科学省、国土交通省や経済産業省などの施策に関係する専門家にも関与いただくユニークな学術総会となった。

テーマを深めるために、日本政策投資銀行グループ株式会社価値総合研究所に協力いただき、モデル地域における地域経済循環構造を分析し、医療を含む公共サービスの役割と期待についての

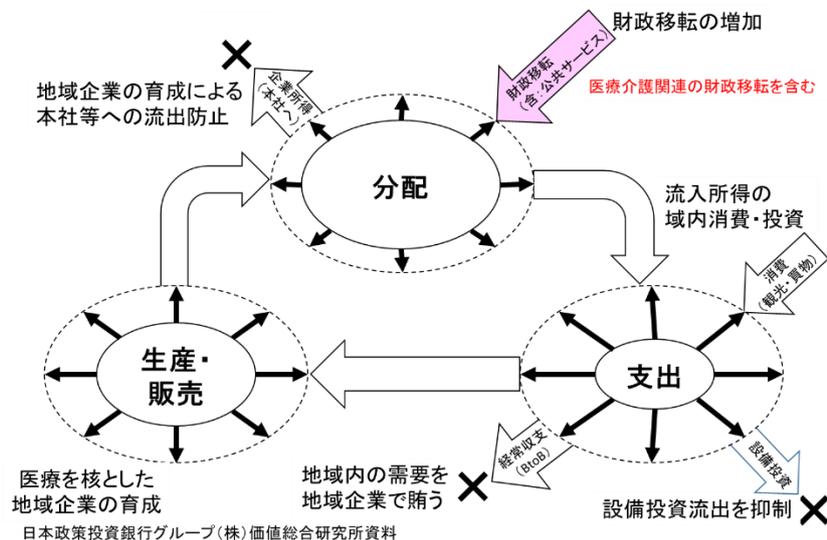
考察を深めた（社会保険旬報 2733: 10-15, 2018; 2760: 6-13, 2019）。その結果、国から地域への財政移転機能の受け皿を担う医療機関が、地域経済循環構造を意識し、当該地域内での消費や投資に心がければ、地域経済循環構造が好転、少なくとも悪化のスピードを遅らせる可能性を秘めていることが示唆された（右図参照）。

第57回総会では新しい3つの領域が意識された。第1は「圏域における組織や情報の統合方法の開発」である。圏域内での組織の統合や健康・疾病・医療情報の統合に関して、「地域医療連携推進法人」「スマートウェルネスシティ」「ブロックチェーン技術の応用」などが話し合われた。第2は「リスクに備える科学」である。行政や医療組織は、1～2年の短期のプレッシャーへの対応を優先し、中長期のニーズや課題を過少評価しがちである。課題を先送りしないための地域での「ヘルスケア事業存続計画（BCP）」「単身高齢者のための身元保証等高齢者サポート事業」「医療機関の事業承継」などのテーマが議論された。第3は新しいテーマに適した「評価と人材育成」である。日本医療機能評価機構とのジョイントセッション、また文部科学省が進める「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の有志が全国から一堂に会して横断的に連携する初めての機会となる公募セッションが行われた。

日本医療・病院管理学会（1963年設立）は、我が国の病院医療のみならず国民の保健・医療・福祉全般にわたる学術活動を展開してきた社会医学系の日本医学会分科会である。専門分化して設立された他の学術団体も多いため、近接領域の学術団体とのジョイント企画のセッションを設けた。実現した日本医療情報学会、医療の質・安全学会（新潟大学との合同）、行動経済学会、日本看護管理学会、日本医療経営学会、日本総合病院精神医学会、そして日本医学会連合の関係者に記して感謝する。

学術総会では、市民公開講座「これからの働き方と健康づくり」を開催した。新潟県見附市の久住時男市長は、99の基礎自治体が加盟する健康で幸福な「健幸まちづくり」をリードするスマートウェルネスシティ首長研究会の会長であり、最新の取り組みをご紹介いただいた。医師の働き方改革と地域医療（丸山明則先生）では現代の課題を、世界の病院の建築の紹介（寛淳夫理事長）では多様な医療の在り方をお示しいただいた。馬場基先生（国立文化財機構奈良文化財研究所）には、木簡の研究から、法律による行政、カレンダーに基づく年

## 地域経済好循環へ医療が貢献する可能性



間計画、時計に基づく勤務時間管理、人事評価、そして文字による書類作成が本格化した時代が奈良時代であることをご紹介いただいた。この劇的な変化に直面し、凄まじいパワハラ、過労死、人々の社会への適応戦略も多様であったことが木簡分析から明らかになっており、我が国の直面する現代の課題を 1300 年前の記録からお示しいただいた。

本学術総会で、時空を超え、また省庁を超えて持続可能な地域医療を支えるアカデミアの役割を幅広く考える機会となった。関係者の皆様にあつくお礼申し上げる次第である。次年度は、「データサイエンスで切り拓く医療・病院管理学の未来」との総合テーマで、2020年10月2日～3日にJR九州ホール（JR博多駅）において開催予定である。



市民公開講座後の記念写真  
 (左から笈淳夫理事長、馬場基先生、筆者、丸山明則新潟県医師会理事、久住時男見附市長)

## 構成学会の総会からのご報告

### 第78回日本公衆衛生学会総会（高知）

高知大学教育研究部医療学系（公衆衛生学）教授

やすだ のぶみ  
 安田 誠史



第78回日本公衆衛生学会総会を2019年10月23日（水）から25日（金）まで、高知県高知市で開催させていただきました。

第78回総会の開催によって、中国四国地域で唯一の本学会総会未開催県であった高知県が、開催経験県に仲間入りしました。高知県は、日本で唯一新幹線が走っていない四国地域の中でも、鉄道によるアクセスでは不利な県です。また、2019年も各地で台風や豪雨による災害が続き（この場を借りて、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。）、復旧復興業務を優先させなければならない衛生行政関係者

が少なくないはずですが、これらの事情によって、第78回総会の参加者数は相当減ってしまうのではないかと心配いたしました。約3400名がご参加くださいました。

高知県には大規模なコンベンション施設がありません。このことに、高知県で最大の収容人員のホールを備えている公的施設が耐震補強工事のために使用できなかったこと、そして、県民が芸術的創作物を披露する県展の開催時期と重なったために利用できない公的施設があったことが加わり、第78回総会では、民間施設を含む4つの会場を、高知市内の2つの地区に分散して配置せざるをえませんでした。2つの地区の間には、徒歩で25分の距離があり、また、総会第2日目が終日、強い雨に見舞われたため、参加された方には大変なご不便を強いました。それにもかかわらず、どの会場でも、多数の方が熱心なご報告・ご討議にご参加くださいました。

本総会のメインテーマを、「実践と研究との協働の深化～マインドとコンピテンシー～」といたしました。人びとが健康、安全、安心に暮らすための基盤である公衆衛生を、実践活動の効果を評価しながら向上させるために、また、公衆衛生の領域で起こる多様な新課題を迅速に把握し、対応策を時宜を失することなく社会実装するために、実践と研究との協働は欠かせません。しかし、公衆衛生の領域の実践と研究との間には距離があり、多くの場合、それぞれでの成果が別々に発信されるだけに留まっています。実践と研究との協働による正の相互作用によって、それぞれが単独で取り組むよりも、社会への貢献も学術活動としての意義も拡充されるはずですが、本総会への参加が、実践家と研究者とが協働の深化をめざし、それぞれの立ち位置で大切にすべきマインド（問題認識と価値観に影響する志向）を掘り下げ、それぞれのコンピテンシー（知識、技能、態度を統合して活用する能力で、測定が可能なもの）に磨きをかける取り組みに挑戦していただくきっかけになることを願い、このテーマといたしました。本総会での発表・討論を契機として、公衆衛生領域の実践と研究との協働にふさわしい取り組みが、次のステージへと進むことを願っております。

学会長の私見により、本総会のトピックスをいくつかご紹介申し上げます。

特別講演では、高知県の尾崎正直知事（11月末に任期満了で退任されました）に、高知県の施策「日本一の健康長寿県構想」の内容と成果をご解説いただきました。日本公衆衛生学会総会で、開催地の知事が講演の講師を務められたのは、記録を確認できる範囲では初めてのことでした。知事が、3期12年に渡り衛生行政の統括者として、イニシアティブを発揮してこられた施策とその成果をご講演になりました。健康づくり活動のターゲットを絞り込んだ展開、先行して超高齢社会に突入した中山間地域での介護福祉サービスの再編成、南海トラフ大地震の被害軽減と速やかな復旧をめざしてのソフト面とハード面の整備などは、参加者が、公衆衛生領域での実践と研究との協働のシーズを探る機会になったと思います。

シンポジウム・ミニシンポジウムは40題で、うち6題が学会長指定枠（地方衛生研究所研修フォーラム1題を含む）のテーマ、残り34題が、公募シンポジウムへの応募47題から、総会学術部会での審査を経て採択されたテーマでした。公募枠へは、採択予定数を大幅に上回るご応募がありましたので、通常はシンポジウムの配置をしない総会1日目午前にもシンポジウムを配置し、また、ミニシンポジウムの

枠を増やすことによって、公募枠での採択を増やしました。指定枠の1題は、高知市保健所が考案し全国へ普及させた高齢者向け筋力増強運動「いきいき百歳体操」をテーマとし、市民公開シンポジウムを兼ねての企画でした。実践家が研究家の成果に基づいて着想した介入を、市民に向けて発信し、普及・持続させるための知恵と仕掛けをご討議いただきました。公募枠のシンポジウムのテーマは、本学会員の背景の多様性を反映して、多様なライフステージ、健康事象、健康関連因子、そして活動手法からのものになりました。

会員からご登録いただいた一般演題については、総会学術部会による審査を経た1412題(口演227題、示説1185題)を、160のセッション(口演44、示説116)に配置いたしました。8セッション(口演5、示説3)は、英語のみで報告・討論が行われる English session でした。一般演題セッションの座長には、日本公衆衛生学会認定の公衆衛生専門家を優先して選定させていただきました。

日本公衆衛生学会総会では、若手の会員を対象に、優秀演題賞としての審査を希望する演題を募集することが恒例になっています。第78回総会では優秀演題賞への応募が537題あり、総会学術部会による抄録の審査で13題が口演賞に選出されました。そして、優秀口演賞選考会で、日本公衆衛生学会理事からなる選考会審査委員会による審査が行われ、最優秀口演賞1題と優秀口演賞3題が選出されました。示説形式で発表された演題については、総会学術部会が、まず、抄録の審査で32のポスター賞演題を選出し、次に、総会会期前にご提出いただいたポスター原稿の審査によって、優秀ポスター賞8題を選出いたしました。

第78回総会から、日本公衆衛生学会理事会の国際化推進委員会が所掌する「国際参加賞 International Participant Award」が創設され、その受賞者6名による講演会が開催されました。海外の公衆衛生領域の実践家・研究者による、日本への留学や日本人実践家・研究者との交流を通して進める活動の成果発表を奨励する表彰として、認知度が高まることを期待いたしております。

その他の企画は、教育講演4題、奨励賞受賞者4名による講演、ランチョンセミナー・スポンサードセミナー5題、自由集会36集会でした。高知県知事による特別講演、学会長講演、教育講演4題は、各講師の了解を得て録画され、日本公衆衛生学会のe-ラーニング教材として活用されます。

第78回総会の会期の前日夕方には、関連行事として、「社会医学系専攻医・専門医・指導医のつどい(指導医講習会)」が開催されました。日本公衆衛生学会総会では、社会医学系専門医・指導医の認定更新のためのK単位にかかる必須受講項目のうち、「医療倫理」と「医療安全」のテーマを取り上げるシンポジウム・講演の企画が少ないのが現状です。第78回総会でも、私の力量不足のため、この状況を変えることはできませんでした。これからの日本公衆衛生学会総会が、「医療倫理」と「医療安全」の領域をカバーする企画の充実によって、社会医学系専攻医・専門医・指導医の方がご参加になる意義が一層高まる学術集会として発展することを願っております。

※ 第78回日本公衆衛生学会総会ホームページ [www.c-linkage.co.jp/jsph78/](http://www.c-linkage.co.jp/jsph78/) (次ページに掲載)

# 第78回日本公衆衛生学会総会

The 78th Annual Meeting of Japanese Society of Public Health

HOME

ご挨拶

開催概要

役員・組織

プログラム

公募シンポジウム

演題募集

優秀演題募集

International Participant Award

自由集会

COIについて

参加者及び座長・演者のご案内

よくあるお問い合わせ

学生の皆さんへ

取得単位について

抄録集事前申込(参加登録)

関連・付随事項

協賛のご案内  
(ランチョンセミナー・広告・展示)

会場案内

アクセス

宿泊案内

チラシ・ポスター掲示お申込み

託児のご案内

関連リンク

実践と研究との協働の深化  
 ～マインドとコンピテンシー～



会期 2019年10月23日(水)～25日(金)

会場 高知市文化プラザかるぼーと /  
 ホテル日航高知旭ロイヤル /  
 高知会館 / 高知新聞放送会館

学会長 安田 誠史 高知大学教育研究部医療学系 教授



第78回日本公衆衛生学会総会は、多数の皆様にご参加いただき、無事終了いたしました。多くの皆様にご協力・ご指導いただきましたことを心より感謝申し上げます。本総会での発表・討論を契機として、実践と研究との協働にふさわしい取り組みが、次のステージへと進むことを願っております。

準備および運営に関しましては遺漏のないよう全力を尽くしましたが、ご不便・ご迷惑をおかけした点が多かったかと存じます。お詫び申し上げますとともに、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

第78回日本公衆衛生学会総会  
 高知大学教育研究部医療学系 安田 誠史

## 今月のお知らせ

関連学会の総会/学術大会のお知らせです。

**第30回日本疫学会学術総会**


開催年月日： 2020.2/20（木）-22（土）

テーマ： 疫学と隣り合う諸科学：共にさらなる発展を

代表者： 中山 健夫  
 （京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野教授）

開催地： 京都市

会場： 京都大学 百周年時計台記念館、国際科学イノベーション棟

事務局連絡先： <京大事務局> 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学  
 〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町  
 <運営事務局> 株式会社日本旅行 西日本 MICE 営業部 内  
 〒530-0001 大阪市北区梅田 1-11-4 大阪駅前第4ビル5階  
 TEL：06-6342-0212 FAX：06-6342-0214 E-mail：jea30@nta.co.jp

開催案内 URL： <http://web.apollon.nta.co.jp/jea30/>

**第25回日本災害医学会総会・学術集会**


開催年月日： 2020.2/20（木）-22（土）  
 テーマ： これでもいいのか、災害医療！  
 代表者： 会長 中山 伸一（兵庫県災害医療センター センター長）  
 副会長 山下 晴央（神戸赤十字病院 院長）  
 空地 顕一（兵庫県医師会 会長）  
 小谷 穰治  
 （神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 災害・救急医学分野 教授）

開催地： 神戸市  
 会場： 神戸国際会議場、神戸商工会議所、アリストンホテル神戸  
 事務局連絡先： 学術集会事務局 兵庫県災害医療センター  
 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目3-1  
 運営準備室 日本コンベンションサービス株式会社 神戸支社内  
 〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1 神戸国際交流会館6F  
 TEL：078-303-1101 E-mail：25jadm@convention.co.jp

開催案内 URL： <https://site2.convention.co.jp/25jadm/>

## 第90回日本衛生学会学術総会



開催年月日： 2020.3/26（木）-28（土）  
 テーマ： 温故創新  
 代表者： 坂田 清美（岩手医科大学 衛生学公衆衛生学講座 教授）  
 開催地： 盛岡市  
 会場： 岩手県民情報交流センター アイーナ（岩手県盛岡市）  
 事務局連絡先： <学会事務局> 岩手医科大学 衛生学公衆衛生学講座  
 〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通一丁目1番1号  
 TEL：019-651-5111 FAX：019-908-8008

<運営事務局> 株式会社 プロコムインターナショナル

〒135-0063 東京都江東区有明三丁目6番地11 TFTビル東館9階

TEL 03-5520-8821 FAX 03-5520-8820 E-mail : jsh90@procomu.jp

開催案内 URL : <http://www.jsh90.umin.ne.jp/index.html>

## 秋の情景 (広報担当より)

業務執行理事 日本衛生学会 川崎医科大学衛生学  
大槻 剛巳

去る11月16日と17日、東京都府中市のクロスウェーブ府中で、社会医学系専門医とも関連する厚生労働省科学研究費「公衆衛生分野等の社会医学分野に従事する医師の育成・確保に向けた研究」の合宿が行われました。この研究の代表者は、協会の理事もお務め頂いております日本公衆衛生学会理事長(大阪大学教授)の磯先生です。

実は、16日には、大槻は日本衛生学会の理事会が開催(@東京慈恵会医科大学)され、また、その終了後、今度は新宿で開催されていた日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術



大会に参加されていた杏林大学の皮膚科の先生と、会場の京王プラザホテルの向かいのエクセルシオールカフェ(新宿ファーストウエスト店)で共同研究の打合せもしたために、17日のみの参加になりました。

詳細については、今後、また種々の展開で協会の関係の皆様にもお気づき頂けるようになるのだと思います。この二日間の旅程の中で、まず、16日、芝公園の芝東照宮の脇で寒桜が綺麗に咲いていました。これで気持ちが本当にほっこり。さらに新宿ではクリスマスツリー(まだ一か月以上も先なのに)で、少し心がウキウキしてしまいました。

その日は、稲城市のJR南武線南多摩駅近くで宿泊して、是政橋で多摩川を越えます。河川敷は10月の台風の被害時になぎ倒された河川敷の草木や、流されてきた流木などがそのままの姿でありました。

さて、そこを超して府中市に入るとユーマンの中央フリ





尼寺跡も広大であり、写真には、写っていないのですが、幢竿遺構といって儀式などの際、周囲を荘厳するための旗などを掲げる柱跡も発掘されていて、幟を立てるだけに、結構、斜めになった竿を突き立てる柱も復元されていました。

また、国分寺跡は、尼寺の跡より更に広大で～悠久の歴史を肌で感じるようでした。

そして、現在の武蔵国分寺、なんと、鎌倉時代末期の分倍河原の合戦の兵火で旧武蔵国分寺が焼失した後、新田義貞の寄進によって再建されたそうで



一ウエイ 〴 右に見える競馬場、左はビール工場 〴 のまさにその場所。ちょっとユーミン世代 (YUMI ARAI の時に、最初のアルバム「ひこうき雲」を聴いた感動は忘れられません) で、かつ、この辺りに初めて足を踏み入れた自分としては、とっても感動を味わいました。

そして 17 日昼過ぎに合宿が終了して、徒歩で北へ向かうと、武蔵野国の国分寺・国分尼寺跡 (写真)、さらに現在の武蔵国分寺 (真言宗豊山派、山号は医王山、院号は最勝院) がありました。国分



す。そして、そこには立派な楼門が。そしてこの楼門も米津出羽守田盛 (通称内蔵助) の元菩提寺として建立された米津寺 (東久留米市) の楼門を明治 28 年に移築したものだそうです。

そして、境内には、万葉植物園があって、元国分寺住職が昭和 25 年-38 年 (1950 - 1963 年) の間に万葉集に歌われた植物 160 種を集めて造った植物園がありました。それぞれに直物の名を記した看板もあり (看板が逆に所狭しって感じにもなっていました)、でも、この植物園は市の天然記念物に指定されているのだそうです。さて、この寺院の薬師堂などもお参り、境内の散策などをさせて頂きながら、そのまま北へ。中央線の西国分寺駅から、八王子、新横浜経由で倉敷へ戻りました。ちょっとステキな歴史散歩って感じでした。

さて、冬にも関連の学会が多いですね。皆様、奮ってご参加ください。